

(公社) 青年海外協力協会 中国支部

広島土砂災害 災害ボランティアセンター

【活動報告】



八木サテライトから「土砂災害の跡が残る山肌」

目次

1. 広島土砂災害の概要

- (1) 被災地域の概要
- (2) 災害発生までの経過
- (3) 被害状況
- (4) 危機対策本部・行政の対応

2. 災害ボランティアセンターと JOCA、OV の活動

- (1) 災害ボランティアセンター概要
- (2) 災害ボランティアセンターと JOCA の活動経過
- (3) 受入れボランティア数と JOCA 職員、OV の活動実績
- (4) OV の活動内容
- (5) 活動の評価

別添 1. ボランティア活動手記への掲載記事

③ 安佐南区・安佐北区の人口

	安佐南区	安佐北区	広島市全体
地区社協 数※1	25	28	138
人口 (0～14 歳)	42, 345	18, 881	170, 119
(15～64 歳)	151, 203	88, 939	748, 293
(65 歳以上)	46, 035	42, 792	269, 903
65 歳以上人口 (%)	19. 2	28. 4	22. 7
総人口	239, 583	150, 612	1, 188, 315
総世帯	99, 877	64, 935	543, 399

(H26.9 月末 広島市)

(2) 災害発生までの経過

各地域で土砂崩れが発生	8 月 19 日(火)	16:03	大雨・洪水注意報発表 (雷注意報継続)
		21:26	大雨：洪水警報発表 (雷注意報継続)
		23:33	洪水解放解除 (大雨警報・雷注意報継続)
	8 月 20 日(水)	00:57	洪水注意報発表 (")
		01:15	土砂災害警戒情報発表
		01:21	洪水警報発表 (")
		03:00	安佐北区可部南部・可部東部で最大時間雨量 115mm を観測 ～ 安佐南区で最大時間雨量 87mm を観測
		04:00	安佐南区、安佐北区で累加雨量 200mm を超える量を観測
		04:15	安佐北区可部南、可部、三入、三入東、大林 (被災地域) に避難勧告
		04:30	安佐南区梅林、八木、緑井、山本 (被災地域) に避難勧告
		05:15	安佐北区口田東等、他地域へ避難勧告
			．．．．．

(H26.12.26 広島市災害対策本部 参考)

※1 地区社協 (地区社会福祉推進協議会または地区社会福祉協議会) は、地区住民や、町内会・自治会、民生委員・児童委員、その他地区の各種団体から選出された代表者によって構成される住民組織です。

(3) 被害状況

① 人的・物的被害

	安佐南区	安佐北区	その他、地域
人的被害			
死亡	68	6	
重傷者	38	9	
軽傷者	16	6	
物的被害			
全壊	145	33	1
半壊	122	95	
一部損壊	106	73	10
床上浸水	796	286	2
床下浸水	2, 278	784	18
山がけ崩れ	119	246	15

(H26.12.26 広島市災害対策本部)

② ライフライン被害※抜粋

区分	被害状況	完全復旧
電気	ピーク時(20 日 4 時)は、安佐南区、安佐北区で 6,900 戸が停電。	29 日 19 時
水道	ピーク時(20 日 16 時)は、西区、安佐南区、安佐北区で 2,662 戸が断水。	10 月 1 日 17 時
公共交通	JR 可部線（可部駅～横川駅間）運転見合わせ。	9 月 1 日

(H26.12.26 広島市災害対策本部)

③ 全市最大時避難者数 ※親族宅等への避難は含めない

区	避難所名	避難世帯数	避難者数
安佐南区	佐東公民館	155	530
	梅林小学校	270	600
	八木小学校	120	283
	緑井小学校	45	118
	山本集会所	4	10
	山本小学校	6	25
	長塚小学校	32	80
安佐北区	可部南小学校	8	80

	可部高等学校	14	39
	可部小学校	46	108
	三入小学校	55	165
	三入東小学校	112	280
	大林小学校	18	41
	口田東小学校	1	3
	真亀小学校	1	1
	亀山南小学校	17	49
	計	904	2354

④ 被災地写真



八木 4 丁目地区 (八木が丘団地)



八木 4 丁目地区 (阿武の里団地)



八木 9 丁目地区



緑井 8 丁目地区



八木 9 丁目地区



梅林小学校付近

(4) 危機対策本部・行政の対応

① 災害救援の経過

8月20日(水) 01:35 広島市災害警戒本部 設置
 安佐南区・安佐北区・佐伯区災害警戒本部 設置
 03:30 広島市災害対策本部、安佐南区・安佐北区災害対策本部設置
 06:28 陸上自衛隊に派遣要請
 11:15 県内広域消防相互応援派遣を要請
 12:30 県外へ緊急消防援助隊派遣を要請
 国土交通省 TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）※2

② 災害救援の概要

活動期間	区分	人数
8月20日～9月11日	陸上自衛隊	14,990
8月20日～9月5日	県内広域消防相互応援 ※県内12消防本部からの応援	1,471 (車両309台)
8月20日～9月5日	緊急消防援助隊 ※岡山、鳥取、高知、大阪	2,634 (車両622台、ヘリ68機)
8月20日～9月23日	国交省 TEC-FORCE	2,441
8月20日～9月20日	中国地方整備局 ※市道等の土砂撤去	785班
8月20日～9月30日	消防団	4,758

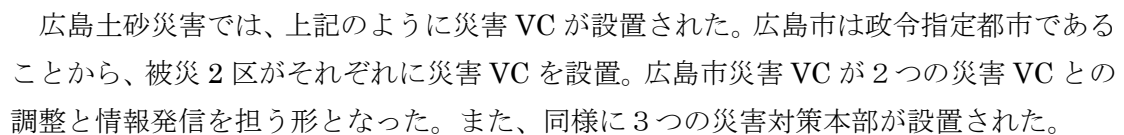
(H26.12.26 広島市災害対策本部 参考)

※2 TEC-FORCEは、大規模自然災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、被災地方公共団体等が行う災害応急対策に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施することを目的としたものです。

本省、国土技術政策総合研究所、国土地理院、地方支分部局、気象庁に設置され、先遣班、現地支援班、情報通信班、高度技術指導班、被災状況調査班、応急対策班、輸送支援班、地理情報支援班、気象・地象情報提供班より構成されます。

災害 VC は、災害発生後、被災市区町村の社会協議福祉会が主体となり設置される。2014 年は、長野北部地震で白馬村社会協議福祉会が白馬村災害 VC を、丹波市豪雨災害で丹波市社会協議福祉会、福知山市豪雨災害で福知山市社会協議福祉会がそれぞれに災害 VC を設置したのを始め、全国で多数の災害 VC が設置されている。

① 設置概要

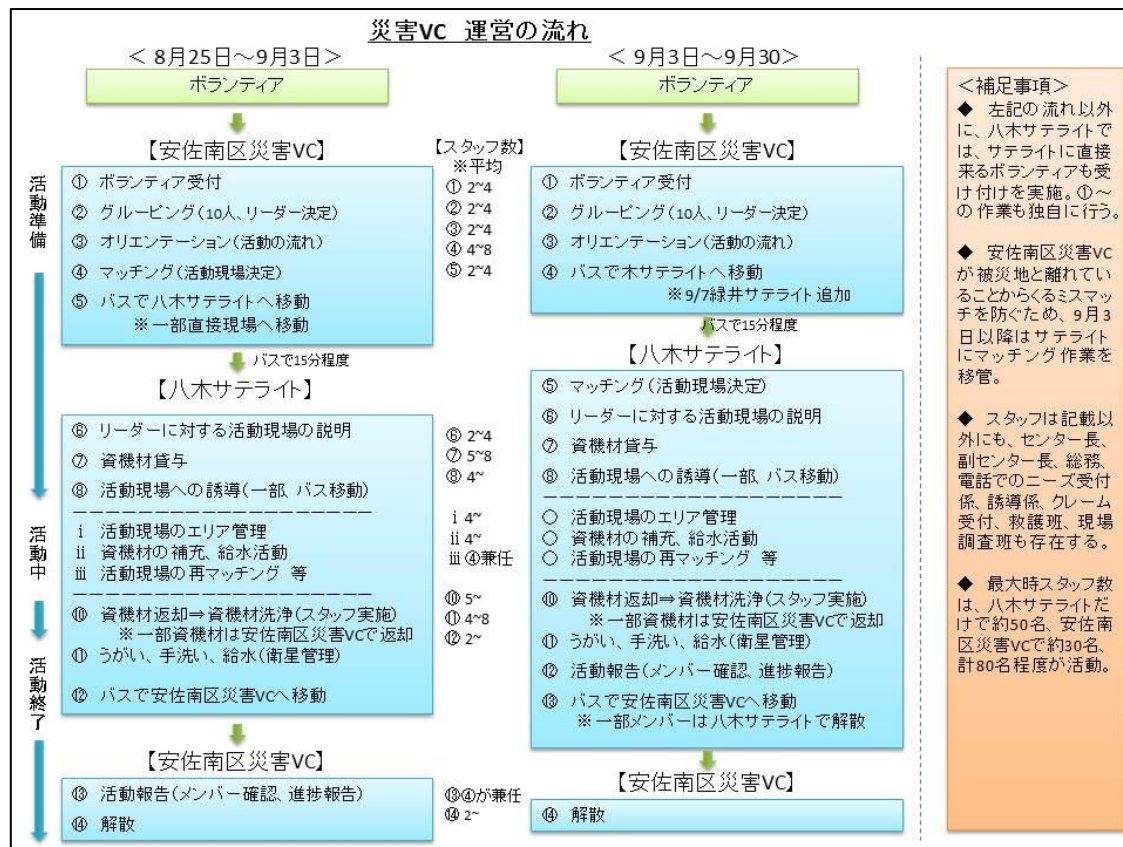


会議は、広島市、広島市社会福祉協議会、日本赤十字社広島県支部、ひろしまNPOセンタ

一が中心となり、県内の約 20 の団体が構成されており、構成団体が連携を取り、災害 VC の円滑な立ち上げと運営を担うための組織である。

※JOCA 中国支部は、この連絡調整会議の構成団体として登録している。

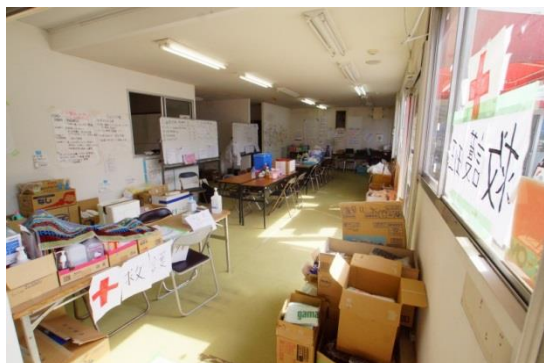
② 災害 VC 運営の流れ



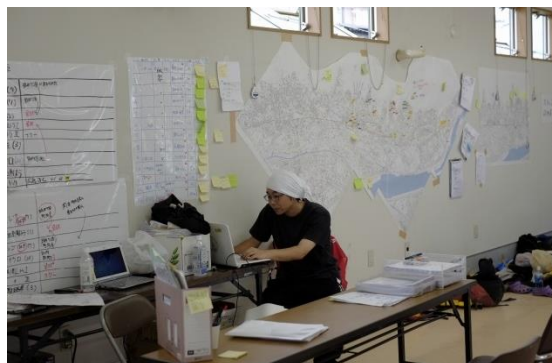
② 八木サテライト位置 (被災地から100m～1km圏内)



③ 八木サテライト設営図



総務全景



総務、被災地の情報収集



ニーズ・マッチング班



ボランティア受付



休憩室



資機材置き場



トイレ・屋外資機材



ボランティアへのブリーフィング



活動へ出発



活動出迎えの準備



飲料水受取り場



資機材洗浄



活動報告の聞き取り



活動後の手洗い



資機材用軽トラ



活動終了後、バスに乗り込むボランティア

(2) 災害ボランティアセンターと JOCA の活動経過

① 経過 (初動期 8月20日(水)～8月24日(日))

月日	全体経過	JOCA 経過
8/19(火)	夜間から翌日未明にかけて豪雨 土砂災害発生。	—
8/20(水) 午前	災害状況を確認、市社協、NPO セ ンター、市で対応を協議。	調整会議より午後に会議の旨、連絡を 受ける。
午後	広島市災害 VC 本部を広島市中区 の市社協本部へ設置。	広島市社協、広島市、区社協、調整会 議構成団体 (5 団体) と安佐南区災害 VC 設置についての会議へ出席。
8/21(木)	広島市災害 VC に災害ボラセン情 報掲載。安佐南区災害 VC を庄原産 直市跡地 (後の八木サテライト) に設置、安佐北区災害 VC を安佐北 区総合福祉センターに設置を内部 で決定。	JOCA は安佐南区災害 VC、広島市災害 VC に人材を派遣することに決定。設置 場所、資機材調達について協議、現場 調査実施。 OV への連絡調整を開始。 OB1 名が広島市災害 VC で活動開始
8/22(金)	安佐南区災害 VC、安佐北区災害 VC 設置し、翌日からの災害 VC 受け入 れを一般に告知。 第 2 回調整会議開催。	増田職員、安佐南区災害 VC 準備、設営。 第 2 回調整会議へ出席。OV への連絡調 整。広島市災害 VC への OV の追加派遣 を要請される。
8/23(土)	ボランティア受け入れ開始 (安佐南 849 名/安佐北 506 名)	安佐南区災害 VC での活動開始。 OB2 名が広島市災害 VC で活動開始。
8/24(日)	雨天、安佐南区災害 VC 活動中止。 翌日より安佐南区災害 VC の受付 場所を安佐南区総合福祉センター (以下、南センター) へ変更する 旨が決定。	安佐南区災害 VC 変更による運搬、設営 作業に協力。

災害発生後、ただちに、広島市社協、被災 2 区の社協は災害 VC 立ち上げの準備を開
始し、JOCA 中国支部へも人材の派遣要請が入る。

JOCA 中国支部は初日より職員を派遣したものの、人員の追加を求める要請が調整会
議より入り、広島県内の OV への活動協力を呼びかけ、OB 1 名を広島市災害 VC 21 日(木)
から、更に 1 名を 23 日(土)より派遣することとなった。

また、活動を行う安佐南区 VC では、災害 VC の立ち上げ場所の決定が二転三転する中、

初日（8/23）の想定ボランティア数を 200 名と予想していたところ、800 名を超えるボランティアが殺到する中で活動を実施することとなった。

② 経過（活動初期 8 月 25 日(月)～8 月 31 日(日)）

月日	全体経過(安佐南区災害 VC)	JOCA 経過
8/25(月)	安佐南区災害 VC は安佐南区災害 VC と八木サテライトの 2 か所に設置。	増田職員、八木サテライトで活動開始。 ※以後、増田は八木サテライトで活動 OV との調整業務、JOCA との調整継続
8/26(火)	団体ボランティア受付用紙公開	活動継続。OV からの活動申し込み増加
8/27(水)	安佐南災害 VC ボランティア参加者 1,200 名を超える。	活動継続。
8/28(木)	各地から資機材、物資が到着始まる。	活動継続。
8/29(金)	調整会議より土日のスタッフ増員要請が各団体へ行われる。	活動継続。
8/30(土)	安佐南区災害 VC ボランティア参加者 2,500 名。一部受入れを断る状況となる。 全国の社協からの応援職員の派遣が開始される。	22 名の OV がスタッフとして安佐南災害 VC で活動。
8/31(日)	安佐南区災害 VC ボランティア参加者 1700 名。 西村厚生副大臣八木サテライト視察。	約 20 名の OV がスタッフとして安佐南災害 VC で活動。

災害の規模と被害が明らかになるにつれ、マスコミ報道が増加する。また、夏休み期間と重なり、想定をはるかに超えるボランティアが災害 VC へ詰めかける。

資機材、スタッフともに圧倒的に不足し、多くのボランティアの受け入れを断る状況が連日続くことになる。

広島市社協、被災 2 区社協、調整会議では、スタッフを増やすために全国へ応援を要請。JOCA 中国支部でも、可能な限り県内の OV に協力を呼びかけ、最大 22 名の OV がスタッフとして活動を行った。

② 経過（活動中期 9月1日(月)～9月14日(日)) ※抜粋して記載

月日	全体経過(安佐南区災害 VC)	JOCA 経過
9/1(月)	広島市災害 VC が広島市中区の広島市社協本部から安佐南区災害 VC のある安佐南区総合福祉センターへ移転。	JOCA、八木サテライト統括調整として活動に従事するようになる。
9/2(火)	県外からの支援団体・NGO との支援連絡会議が開催される。	活動継続。
9/3(水)	第3回調整会議開催。 市長が県外ボランティアの受け入れを表明。	調整会議出席。引き続き OV の活動を要請される。
9/4(木)	県外ボランティアの団体受け入れを開始。※個人の受け入れは不可	活動継続。
9/6(土)	安佐南区災害 VC 緑井サテライトの開設を準備。	活動継続。
9/7(日)	安佐南区災害 VC 緑井サテライトが開設される。	活動継続。
9/13(土)	安佐南区災害 VC、安佐北区災害 VC、受け入れボランティア数3万人を突破。	活動継続。

発生から2週間が経ち、自衛隊、広域消防援助隊が撤収する。被災地では、立ち入り禁止区域が解除され、ボランティアによる活動範囲が拡大。安佐南区災害 VC では、緑井サテライトを開設する。また、県外から団体のボランティア受け付けも開始される。

八木サテライトでは、「ピースボート災害支援ボランティアセンター」※4 など、県外からの支援団体が長期で支援を開始したことで、一時期の混乱は収まる。

しかしながら、初動期から八木サテライトで携わってきたスタッフが JOCA のみとなったことから、以後、八木サテライトの統括調整2名のうちの1名として JOCA が運営に関わることになる。

※4「ピースボート災害ボランティアセンター」

NGO ピースボートが母体となり、東日本大震災後に設立された一般社団法人。日本国内外において地震、津波、台風などの自然災害が新たに発生した場合、国内外のボランティアが火急かつ効果的かつ持続的に被災者を救援、支援できるよう、災害ボランティアの育成と被災地へのより効果的な派遣システムの確立と普及も目的として設立された。

② 経過（活動後期 9月15日(月)～9月30日(火)） ※抜粋して記載

月日	全体経過(安佐南区災害 VC)	JOCA 経過
9/16(火)	第6回調整会議開催。 受入れボランティア数が徐々に減少を始める。	活動継続。
9/17(水)	厚生省政務官視察。	政務官への八木サテライト視察案内
9/21(日)	小泉復興副大臣視察。	副大臣への八木サテライト視察案内
9/23(火)	八木サテライトの9月一杯での閉鎖が決定（外部への発表なし）。 台風のため、24日、25日の活動中止が決定される。	活動継続。
9/27(土)	受入れボランティア数4万人を突破する。	活動継続。
9/28(日)	第8回調整会議開催。 休日受入れボランティア数500名を下回る。	活動継続。
9/29(月)	10月以降、災害VCの復興連携センターへの体制移行が発表される。	活動継続。
9/30(火)	八木サテライト閉鎖。 ※5 資機材等撤収作業開始される。	～以後、10月3日（金）まで撤収作業を行い。活動終了。

活動も後期に入り、被災者からのニーズ（土砂掻き等の要請）も減少傾向になる。また、受入れボランティア数も毎日500人前後で推移する。

広島市、安佐南区、安佐北区災害VCは、3者協議の結果、10月以降、災害ボランティアセンターを「復興連携センター」へ移行させることを決定。それに伴い、八木サテライトの閉鎖を決める。

JOCA 中国支部は、発生からここまで一貫して活動が続けてきたものの、復旧期から生活支援、復興期への移行に伴い、職員の派遣を終了する旨調整会議に連絡し、以後は、引き続き活動を継続するOVの支援等に内容を変更する。

※5 八木サテライトは9月30日(火)で閉鎖したものの、緑井サテライトは資機材保管場所として11月12日(水)まで継続する。

(3) 受入れボランティア数と JOCA 職員、OV の活動実績

① 参加 OV 数 57 名 計 334 日の活動実績

※ボランティア＝安佐南区活動人数 / 安佐北区活動人数

※南区＝安佐南区災害 VC / 八木＝八木サテライト / 広島＝広島市災害 VC

日付	ボラン ティア	OV 活動実績			日付	ボラン ティア	OV 活動実績		
		南区	八木	広島			南区	八木	広島
8/21(木)	—	3		0	9/16(火)	564/215	0	4	2
8/22(金)	—	6		0	9/17(水)	644/253	0	3	2
8/23(土)	849/506	5		2	9/18(木)	526/270	0	3	1
8/24(日)	—/868	4		2	9/19(金)	410/228	0	4	1
8/25(月)	745/380	1	4	2	9/20(土)	671/221	0	10	1
8/26(火)	1001/435	1	3	2	9/21(日)	745/222	0	7	1
8/27(水)	1209/691	0	3	2	9/22(月)	454/195	0	4	1
8/28(木)	868/553	0	3	2	9/23(火)	436/214	1	4	1
8/29(金)	1070/532	0	7	2	9/24(水)	—/—	1	3	0
8/30(土)	2495/770	1	19	3	9/25(木)	—/—	0	3	0
8/31(日)	1782/1047	2	17	2	9/26(金)	267/211	0	4	1
9/1(月)	948/390	0	5	1	9/27(土)	481/133	0	5	1
9/2(火)	911/352	0	8	2	9/28(日)	404/152	0	3	1
9/3(水)	920/331	0	5	2	9/29(月)	198/147	0	3	1
9/4(木)	—/—	0	5	1	9/30(火)	230/175	0	6	1
9/5(金)	694/372	0	8	1	10/1(水)	—/—	0	4	0
9/6(土)	1298/582	0	9	2	10/2(木)	—/—	0	4	0
9/7(日)	1607/523	0	16	2	10/3(金)	—/—	0	4	1
9/8(月)	835/307	0	5	2	※6				
9/9(火)	647/244	0	5	1	計	44 日	9	266	59
9/10(水)	770/178	0	4	2					
9/11(木)	589/349	0	4	0					
9/12(金)	714/331	0	5	2					
9/13(土)	801/332	1	9	2					
9/14(日)	922/444	1	14	2					
9/15(月)	543/271	0	12	2					

※6 10月3日以降も、一部 OB は継続して生活支援、復旧活動を継続中。

(平成 27 年 3 月 10 日現在)

(4) OV の活動内容

①【看護師 OG：災害 VC での衛生管理。ボランティアの負傷時の応急手当等の活動】

災害 VC 活動初動期においては、看護師が配置されておらず、災害 VC の衛生管理や負傷時の対応が未整備であった。そのため、看護師 OG に依頼し、衛生環境の設備と負傷者への応急手当の対応を実施した。(9月1日より、赤十字から正式な看護師が常駐することとなり、専門職としての活動は終了する。)

②【板金加工 OB、自動車整備 OB：災害 VC での資機材整備、修理等の活動】

災害 VC では、作業に必要な様々な資機材を管理しているが、活動が進むにつれ、破損修理が必要なものが多くなり、資機材の不足に繋がった。発電機、一輪車やスコップ等、必要に応じて技術のある OB が修理、整備を行うことで、ロスの少ない資機材管理が可能となった。

③【復興支援員の経験のある OB/OG：エリアリーダーとしての活動】

被災地で活動をするに当たり、ボランティアの安全管理や適切な状況判断を出来るスタッフが不足しており、特に、活動初動期・初期の 2 次災害の危険性が指摘されていた。

活動に参加した OB/OG の中には、復興支援員として東北での経験を有するものがあり、エリアリーダーとして、複数の活動チームを統率する役割を担った。

④【途上国での経験を活かした OB/OG：受付、誘導、資機材現地調査等の活動】

災害 VC 運営では、慢性的にスタッフが不足する中、十分なブリーフィングや指示を行うことが難しい状況であった。そのような中、短期間であっても全体の状況を見渡し、必要に応じた役割を担当できる、OB/OG の現場力は災害 VC を運営する上で非常に有効であった。

具体的な活動としては、受付、誘導、資機材、現場調査等を実施したが、役割をこなすだけでなく、自主的に導線の配置や資機材の管理方法等、細かな点の改善も行ってもらうことができた。

また、様々な背景のボランティアが参加し、現場がしばしば殺伐となる中でも、コミュニケーションを欠かさず活動を実施できる点など、途上国での現場力が活きる活動であった。

(5) 活動の評価

今回の災害支援では、OV57名が活動、延べ活動日数は総数にして334日間に及んだ。活動中、被災者、ボランティアの皆さんから多くの応援、御礼の言葉を頂き、活動を行うことができた。以下に、今回の災害VC支援での具体的なOVへの評価として挙げられる事例を紹介する。

① 広島市社会協議会への臨時職員としての採用

広島市災害VCで8月23日より活動を開始したOB1名は、その活動を評価され、活動途中の9月半ばに、広島市社会協議福祉会の臨時職員として2か月間(9月1日～10月31日 ※9月分を前倒して雇用)雇用され、復興連携センターの業務に従事する。

また、その後は、市内の地域包括センターへの就職が決まるなど、災害支援の経験が評価される結果となった。

② 広島県青年海外協力隊OB会へのロータリー財団からの助成と生活支援の継続

JOCA中国支部としての活動支援は9月30日に終了したものの、その後も広島県OB会のメンバーが、被災地域にて生活支援の活動を継続している

12月にロータリー財団から被災地支援事業に対する助成金が公募され、広島県OB会が提案した事業が、これまでの活動実績も認められ助成対象となる。(金額:60万円)

③ 全国社会協議福祉会との連携

活動中、全国社会協議福祉会(以下、全社協)からの視察が八木サテライトを訪問。その際の活動報告等が契機となり、災害VC運営時の協働のパートナーとして相談を受けることとなった。

2月に神戸市で行われた「災害ボランティアセンター運営者会議」では、全体セッションの中で、外部団体として話す機会を頂くなど、今回の活動内容が評価され、多くの方にJOCAの存在を知ってもらう機会を得ることができた。

※今後も協議を継続予定。

④ 活動手記の投稿、地域での出前講座など

安佐南区社協のボランティア活動手記にOGが投稿。また、被災地で活動していたOB/OGが招かれ、地域住民に対して出前講座などを実施する機会を得るなど、地域からも、活動が評価されている。

(活動写真)



住民から被害状況を聞く細川 OB



資機材返却の準備をする升島 OG



阿武の里団地で活動中の升井OG



資機材班・河野OG（荷物を持っている女性）



OBが中心で活動した阿武の里団地休憩所

多くのOB・OGの皆様、ご協力ありがとうございました。



平成 27 年 3 月 27 日
(公社) 青年海外協力協会 中国支部